

スクール・ミッション （本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像）	「一人一人の個性に寄り添い、可能性を伸ばし、社会へとつなぐ夜間定時制高校」 生徒が安心してのびのび学べる環境で、一人一人の個性や才能を伸ばしながら、職業生活に必要な知識・技術を修得できる教育活動を通じて、果樹栽培をはじめとする地場産業を支える人材を育成します。		
スクール・ポリシー （三つの方針）	グラデュエーション・ポリシー （育成を目指す資質・能力に 関する方針）	○自信や自己肯定感を育み、将来を意欲的に志向できる力 ○他者を思いやり、多様な価値を受け入れ、他者と協働できる力 ○他人に流されず、自分の考えや判断で行動できる力	
	カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成及び実施に 関する方針）	○義務教育段階からの学び直しや基礎学力の定着 ○生徒の興味関心を育む工業と商業の選択科目開設 ○資格取得や高認試験対策など個別指導の充実 ○「総合的な探究の時間」を通して、自己理解を深める時間を確保 ○特別活動を通して、集団的活動や体験的活動、健全な仲間づくりの機会を提供 ○少人数授業によるきめ細かな指導	
	アドミッション・ポリシー （入学者の受け入れに 関する方針）	○年齢を問わず、学ぶ意欲のある人 ○将来について考え、その実現に向けて努力できる人 ○仕事と両立して高校を卒業する意志がある人 ○夜間定時制高校で学ぶ覚悟がある人	

学校運営計画（4月）										
学校運営方針		日本国憲法、教育基本法に則り、自ら学ぶ意欲をもち、心豊かで責任感あふれ、社会の変化に主体的に対応し、地域社会に貢献できる人材の育成に努める。						評価 （総合）		
昨年度の成果と課題		年度重点目標				具体的目標				
生徒の日々の状態の把握と情報共有に努め、学習状況や出欠状況等、生徒が抱える様々な課題や悩み等について、保護者と連携しながら個別対応を進めることができた。 ICTを積極的に活用した授業やアクティブラーニング型授業の積極的導入等の授業改善により、生徒が主体的に協働しながら学びに向かうことができた。 本年度は、外部機関や専門家との連携強化を図り、組織的かつ計画的に生徒のコミュニケーション力や問題解決力等、必要な資質・能力を身に付けさせる取組を充実させる。		きめ細やかで個に応じた適切な指導の充実				組織的な生徒・進路指導体制を整備し、生徒の進路・自己実現を図る。				A
		基礎からの学び直しや体験的・問題解決的学習等の充実				ICTやアクティブラーニング等、積極的な授業改善に努める。				
						基礎学力の向上や資格取得・高認試験合格を目指す。				
		コミュニケーション力の向上と健全な仲間づくりの支援				個人面談の充実と職員間の情報共有の徹底を図る。				
		安心・安全な教育環境の整備と広報活動の充実				SCと連携・協力し、教育相談、ケース会議の充実を図る。				
						学校ホームページ等活用した広報活動に努める。				
自己評価								学校関係者評価		
評価項目	具体的目標	具体的方策		生徒、保護者対象のアンケート （外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
中途退学・原級留置等の防止	組織的な支援体制の構築	生徒情報交換会、教育相談委員会を活用し、早期情報把握と職員の共通理解を図り、多角的な支援・指導を行う。		担任を中心に良好な関係作りが進み、生徒支援に繋がっている。「学校生活アンケート」(生徒対象)	B	A	A	生徒の日々の健康や情緒等を含めたの状態を把握して指導・支援し、学習状況や出欠状況における問題に対しては、担任を中心に教科担当・保護者・全職員で連携しながら早期対応を継続していく。 保護者、スクールカウンセラーとの連携を強化し、組織的かつ計画的に問題を抱える生徒の支援を段階的・組織的に進める。	A	・相談できる体制づくりが大切である。学校が組織的に対応することできめ細かな指導を行い、中途退学防止に努めてほしい。
		あらゆる機会を捉えて生徒と関わり、個人面談も活用する。			A					
	早期対応と個に応じた指導の実践	担任・副担任が生徒の心身の状況を毎日把握する。			A	A				
		保護者やスクールカウンセラー等の関係機関と協力して、効果のある指導や支援を行う。			B					
学習指導	個の学力、理解に応じた分かる授業	ICTの活用や新課程に沿った学習評価での授業づくりを推進する。		前年度より、ICTやクロムブックの活用が確実に進んだ。「授業アンケート」	A	B	B	ICTやアクティブラーニング型授業を積極的に取り入れ、分かる授業、達成感や学ぶ喜びを感じられる授業の実践を工夫する。	B	・定時制の生徒にとっては、基礎学力の定着に向けた学びが何より大切である。
		基礎学力の定着度を把握し、希望進路に応じて必要な学力を身に付けさせる授業を行う。			B					
	基本的な生活習慣と学習習慣の確立	毎時の授業のねらいを明確にし、学習意欲や目的意識を高め、生徒が達成感を味わえる指導を行う。		発表やレポート、提出物等を通して授業に取り組んでいる。「授業アンケート」	B	A				
		授業規律と始業・終業の挨拶の励行など、学習環境づくりに努める。			A					

様式3

生徒指導	問題行動の未然防止を図ると共に、規範意識やマナーの向上を図る。	効果的な指導や支援を行うために、生徒の実態把握を進め、生徒理解に努める。	「困ったときに相談できる先生がいる。」(いじめ調査アンケート)より	A	A	A	毎週一回の生徒情報交換会を実施することで、職員間の共通理解を図り、生徒の実態把握に基づいて、職員が連携して指導にあたることができた。	A	・ほとんどの生徒が中学校時代に不登校を経験している中、親身になってよく支援いただき、出席率も向上している。 ・いじめアンケートの結果がとても良好に感じる。SNSの利用に関する講演会を多く取り入れるなど、引き続きいじめのない安全・安心な学校づくりに努めてほしい。			
		職員間での情報共有や生徒との信頼関係の構築により、問題行動の早期発見と早期対応、未然防止に努める。		A								
	生徒の実態に応じて、主体的に学校生活を送らせ、他人を思いやる気持ちを育み、いじめのない環境をつくる。	いじめ防止に向け小さな変化も見逃さない、細やかな生徒観察と職員間での情報共有を行い、組織的な指導を実施する。	「困ったときに相談できる友だちがいる。」(いじめ調査アンケート)より	A	A							
		部活動の活性化に努め、活動目標と活動内容の充実を図ることで加入率を向上させる。		B								
	保護者との連携を強化し、家庭生活を含め、基本的な生活習慣の確立を図る。	「いじめ発見のための家庭用チェックリスト」等の保護者へのアンケートを実施し、保護者と担任の連携を強化する。	「家庭での様子は、特に気になることはありません」(いじめ発見のための家庭用チェックリスト)より	B	B		「いじめ発見のための家庭用チェックリスト」等の保護者へのアンケートは、予定通りに実施することができたが、次年度は回収率の向上に努めていきたい。					
		SC、SSW等の専門職員や関係諸機関と適切な連携を図り、生徒指導に生かしていく。		A								
進路指導	進路実現に必要な基礎学力の定着	各授業担当と連携し、生徒の基礎学力・学習意欲の向上につながる授業を行う。	「授業アンケート」の結果から授業に対してきちんと授業を受けている生徒がほとんどであった。	A	A	A	総探で行うキャリア教育に外部講師・機関を利用した講演会・企業見学を次年度以降も継続して行うとともに更に更に充実させていく。	A	・キャリア教育を充実させ、進路選択・進路実現に向けて段階的な指導をお願いしたい。 ・アルバイトの経験を適切な職業観や勤労観の育成、勤労意欲の向上につなげてほしい。			
		大学等に進学・高等学校卒業程度認定試験を受験する生徒に対し、随時補講を行い、進路実現のサポートを行う。		B								
	アルバイトの奨励	アルバイトを通して、適切な職業観・勤労観の育成や勤労意欲の向上につながるように指導するとともに、将来の進路選択に向けた動機付けにさせる。	「アルバイト・就業調査」からアルバイトをしている生徒が、4割であった。	A	A		アルバイト経験者を増加させることができたが、更に1年生にアルバイトを勧めるとともに、上級生のアルバイト未経験者には積極的にアルバイトを促していく。					
	地方自治体や企業と連携した行事の実施	就業前労働講座・租税教室・地元企業紹介事業などの行事を通して、働く上での基礎知識を身に付けさせたり、様々な職業に対する理解を深めさせたりする。	租税教室については分かりやすかったとの生徒のアンケートが多かった。	B	B					就業前労働講座・企業訪問ができなかった。資格試験を受験しようとしている生徒が増加傾向にあるので、各教科担当を中心にサポート体制を整える。		
保健指導	安心・安全な教育環境の整備に努める。	月に一回の大掃除を実施時に美化委員で校内の安全点検を行うとともに、安心・安全な学校づくりの意識を高める。	安全点検票：階段を上ったところが滑りやすくなっている。(4月)椅子がぐらぐらする。(5月)	A	A	B	月末大掃除の時に、美化委員が掃除区域の安全点検を実施し、安心・安全に対する意識の向上を図ることができた。美化委員の生徒だけでなく全生徒が意識して学校生活を送ることができるよう今後も続けていきたい。	B	・生徒の心のケアに対して組織的、継続的な支援がなされている。引き続きお願いしたい。			
		月末大掃除やロッカーの整理整頓を実施し、生徒一人一人の美化意識を向上させる。		B								
	保健教育・健康教育を通して、健康に対する意識や自己管理能力を高める。	給食時の衛生面の指導やマナー指導を徹底する。	性の相談アンケート・心の相談アンケート：約4割の生徒が悩みやストレスがあった。	B	B		アンケートを行うことで、生徒の実態把握ができ心のケアを充実させると共にSC・SSW・医師と連携できた。今後も時期や生徒の実情に合わせて取り組んでいきたい。					
		専門機関との連携を図り、生命・健康・食育などに関連した指導や支援を充実させ、自己管理能力を高める。		A								
地域から信頼される学校づくり	安心・安全な学校の姿を積極的に地域に発信し、学校見学に参加する中学生を増やす。	学校ホームページの更新作業を速やかに行い、トップページを魅力的なものに変更する。	定時制通信を定期的に発行し、他校の先生も興味を持って見られていた。	A	A	A	定時制通信を定期的に発行し、速やかにホームページにも掲載することで、魅力的な定時制課程のアピールになった。次年度も継続していきたい。	A	・年に8回程度、定時制通信を発行して、定時制の魅力をHPを活用しながら発信していることがうかがえる。PTAとの連携を活発にしてみっと魅力を発信してほしい。			
		授業や行事、部活動などの教育活動について日常的に発信する材料をストックしておく。		A								
	PTA活動の活性化を図り、PTA行事への保護者の参加を増やす。	PTA理事会の円滑的な運営に努め、PTA活動や学校行事に参加しやすい状況を作る。	PTA活動の一環として、親子食育に保護者が参加、好評である。	A	A		親子食育教室では、例年より多くの保護者の参加があり、生徒たちの学校での様子を知らせることができた。理事会の運営も円滑にできた。					
		意見交換や行事などの検討が活発に行われるように、事前に検討事項を提示し、アイデアを募る。		B								
	学校行事を通して、地域の人々との触れ合いや郷土に対する愛着を深める。	生徒の意見や希望を反映した企画にすることで、主体的な参加意欲を喚起する。	生徒の意見等を聞きながら食材収穫体験の内容を考えた。	A	A		食材収穫体験は、生徒の意見や希望を反映させて実施することができた。また、地元の農園に設定することで、地域とのつながりも意識させることができた。					
		事前学習により意義やねらいを確認した上で、地域との関わりを意識して取り組ませる。		A								
	中学校訪問や公開授業を通して、本校の教育活動について理解を得るとともに、地域における本校定時制の存在意義を高める。	年2回の中学校訪問では情報交換と共に、在校生や保護者の直接の声を届ける工夫をする。	年間2回中学校訪問を行い、中学校の先生と連絡が密にとれるようになった。	A	A		A			公開授業では、5名の中学校の先生と12名の保護者の方に参加いただき、本校の教育について理解が深められた。	A	・中学校時代の困り感を丁寧に捉え、高校での教育活動によく活かしていると感じる。 ・地域でのボランティア活動など、積極的に地域と関わる機会を増やしてほしい。
		公開授業の際に参加者との意見交換の場を設けることで、教育活動への理解を促す。		A								
	生徒による授業アンケートや公開授業の参加者アンケートを基に、授業改善と教育の質の向上を目指す。	全日制と連携して、ICTの活用やオンライン配信技術などの基本的で実用的な研修を実施する。	人権教育を年4回行い、その度に前後の研修を行い、内容を共有することができている。	A	A		生徒による授業アンケートを2回、公開授業アンケート1回とり、各自授業改善に取り組んだ。					
		授業改善と学習評価に特化した研修会を実施し、職員が互いに授業改善について意見交換をする場を設ける。		B								

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・生徒個々の悩みや困り感にきめ細やかに対応するため、組織的な相談できる体制づくりに向けて取り組む。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない

様式3

・様々な関係機関と連携して生徒の心のケアに努め、定時制の学校生活をより安全・安心なものとする。
・地域、PTA、中学校との連携を強化した様々な取り組みを実現し、定時制の魅力向上を発信する。
・発達段階や多様な進路希望に対応した4年間のキャリア教育計画を充実させ、社会に対応できる人材の育成に努める。

	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
・卒業証書授与式において、卒業生答辞代表生徒のひたむきな姿に感動した。	